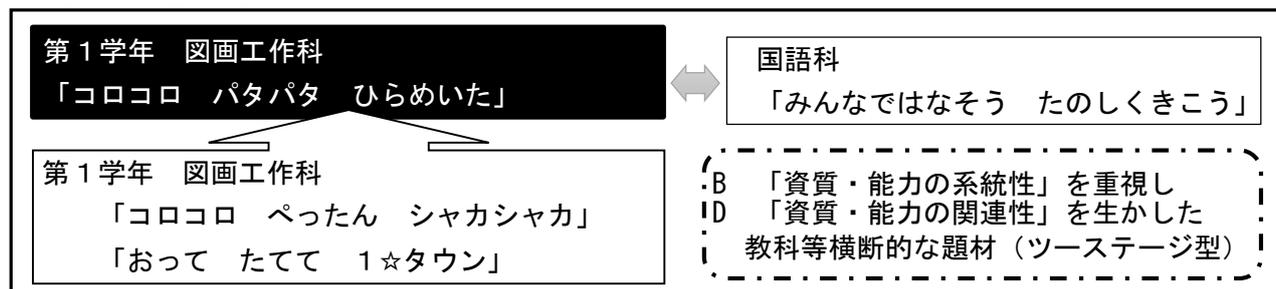


第1学年星組 図画工作科（+国語科）
「コロコロ パタパタ ひらめいた」

指導者 是澤 雅代

1 題材全体構想図



2 題材構想について

本題材は、B「資質・能力の系統性」を重視しD「資質・能力の関連性」を生かしたツーステージ型の教科等横断的な題材である。

本学級の子どもは、「コロコロペったんシャカシャカ」の学習で、ローラーを転がすと様々な色や形を紙に写すことができることを理解し、色を選んだり、転がし方や押し方を変えたりするなど工夫しながら、体全体を使って楽しく活動した。そして、その写した色や形が組み合わさっていくと新しい見え方になる面白さも実感していた。「おってたてて1☆タウン」の学習では、平面の紙を折ると立てることができることを理解し、平面から立体に変化する面白さを味わいながら活動した。また、折りしろの大きさを工夫したり、置き方の向きなどを変えたりすることで、見え方が変わることに気付いていた。そこで、子どもがこれらの学習を通して身に付けた造形的な資質・能力を活用しながら、一人一人が自分の思いを持って絵や立体に表現する発展的な題材を構想することで、子どもが「そうぞうする力」を発揮しながら主体的に色や形にかかわることのできるのではないかと考えた。

本題材の「出会い」の場面では、150 cm×50 cmの白い段ボール板を子ども一人一人に1枚ずつ用意する。子どもの身長程もある大きな白い段ボール板との出会いは、低学年の子どもの心を大きく動かすであろう。そして、その大きな白い段ボール板に、ローラーを使って自由に色や形を写していく。子どもは、これまでの学習で身に付けた資質・能力を発揮しながらローラーを使い、主体的に学習材とかかわりながら、これからの活動への期待感を高めるであろう。「追究」の場面では、段ボールの板に写したローラーの色や形から楽しく想像を広げ、その想像した世界を自由に描いていく。子どもが想像した世界を描く際には、表現したいイメージにより近付くことができるように描画材を自由に選択できるようにする。描画材を選びながら、その特徴を生かして絵を描くことで、子どもが表現への思いを一層膨らませることができると考える。また、「そうぞうする力」を更に発揮させることができるよう、これまでの学習で身に付けた資質・能力を活用して、段ボール板を折って立てたり、階段のようにしたりなど様々な形を変化させていく。段ボール板の形を平面から立体的に変化させていくことで、高さ、向き、角度、面の数などが変化し、子どもは、新たに造形的な見方・考え方を働かせることができるであろう。そして、その形の変化からも更に想像を広げて、楽しく発想や構想を繰り返しながら活動するのではないだろうか。また、教室環境も工夫し、子ども同士が自然と交流し合うことができるようにする。友達と交流することで、新たな表現方法に気付いて自分の表現に生かしたり、更に想像が広がったりするであろう。自分の想像した世界を、国語科で身に付けた「自分なりの言葉で他者とつながる力」を生かして友達と語り合いながら、子どもは自分の見方・考え方を働かせて自分の表現とより深く向き合うのではないだろうか。「振り返り」の場面では、完成した作品を教室に並べ、作品について友達と交流する十分な時間を確保する。互いの作品を鑑賞し合いながら、作品に対する思いや考えを友達に伝えることで、自他の作品や活動のよさに改めて気付くことができる。また、友達との対話の中で自分では気付かなかったよさを知ること、更に自分の作品に愛着が湧き、題材全体の活動に満足感を得ることができ、今後の活動にも生かそうとすると考えた。

3 題材のねらい

- 体全体を働かせながら、ローラーや描画材などでの表し方などを工夫して、創造的に表すことができるようにする。
- 写した形や色の面白さや楽しさから、表したいことや表し方などについて想像したり、折って立てた形からも更に想像を広げたりするなど、楽しく発想や構想をして自分の見方や感じ方を広げるようにする。
- 友達とかかわりながら楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組むことで、自分や友達の活動や表現のよさや面白さに気付く。

4 題材の指導計画（全6時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
出 合 い	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">コロコロ遊びを楽しもう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体全体を働かせながら、写す活動を楽しむ。 ○ 転がし方を変えたり、色を選んだりしながら、どんな表現ができそうか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 体全体の感覚を働かせながら、写す活動を楽しみ、これからの活動への期待感を高めている。 	1
追 究	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">コロコロパタパタから生まれた色や形からひらめいた、想像した世界を絵で表現しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ローラーで写した色や形から、楽しく想像を広げて絵を描く。 ○ 段ボールを折って立てたり、向きを変えたりしながら、更に想像を広げて、絵を描く。 ○ 想像したことを自分のイメージに合う描画材を効果的に選択し工夫して表現する。 <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達とのかかわりを通して、友達の表現のよさや面白さに気付いたり、新たな表現方法に気付いて自分の表現に生かしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 写した形から想像したり、折って立てた形からも更に想像を広げたりして、発想や構想を繰り返しながら自分の表現したいものを考えている。 ● 自分の想像した世界のイメージに合った描画材を選びながら工夫して表現している。 ● 友達と対話したりすることで、自分や友達の表現のよさや面白さに気づき、自分の表現に生かしている。 	4 本 時 その 3
振 り 返 り	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">友達の世界を見に行こう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や友達の作品を鑑賞し合い、互いの表現の良さや面白さに気づき、交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分や友達の表現のよさや面白さに気づき、認め合ったり、伝え合ったりしている。 	1

5 題材における指導の工夫

場面	三つの場面ごとの子どもと「つなぐ」指導の工夫（学習材・他者・自分自身）
出 合 い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白い段ボール板の大きさを工夫することで、子どものこれからの活動への期待感を高めることができるようにする。（学） ・ 段ボール板にローラーで色を写す際には、ローラーを使ったこれまでの学習での経験を想起することができるようなものを用意することで、子どもが主体的に活動することができるようにする。（学・自） ・ 子どもが自分の造形的な見方・考え方を働かせることができるような指導言を工夫したり、友達と自由に交流することができる教室環境や雰囲気を作ったりする。（学・他・自）
追 究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの表現に共感したり、賞揚したり、クラス全体に紹介したり、また、子どもの気付かない視点や方法を提案したりするなど指導言を工夫することで、子どもが意欲的に粘り強く活動することができるようにする。（学・自・他） ・ 段ボール板を折って立てる際には、平面を立体に表現したこれまでの経験を想起することができるようなものを用意することで、子どもが主体的に活動することができるようにする。（学・自） ・ 教室環境を工夫することで、友達と自由に交流し合い、互いの思いや考えを伝えたり、作品を見合ったりしながら、新たな表現方法に気づき自分の表現に生かすことができるようにする。（学・他） ・ 活動の様子を撮影した写真や振り返りカードなどを活用することで、子どもが自分自身の活動や作品を振り返り、そのよさを実感することができるようにする。（自・他）
振 り 返 り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成した自分の作品を鑑賞させることで、自分の作品のよさや面白さを改めて実感し、作品に更に愛着が湧き、題材全体の活動に満足感を得ることができるようにする。（自） ・ 友達の作品の表現のよさや面白さを見付けたり交流し合ったりする時間を十分に取ることで、多様な見方・考え方を互いに認め合ったり、自分自身が気付かなかった自分の作品の造形的な見方を知ったりすることで、生活の中で身に付けた「そうぞうする力」を生かし発揮しようとするようにする。（自・他）

6 評価の具体的な方法

(1) 指導者評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
出 合 い	○ 白い大きな段ボールに興味・関心を持ち、手や体全体の感覚を働かせながらローラーを使い、その動かし方を工夫するなどして、様々な色や形を表現している。	○ 白い大きな段ボールにローラーで写す色を選んだり、写す形を考えたりしながら、どのように表すかについて楽しく考えている。	○ 白い大きな段ボールに楽しくローラーで色や形を表現し、新たな気付きや感動を得て、これからの活動への期待感を高めている。
追 究	○ 段ボールに写した色や形、立体にした段ボールの形から想像した世界のイメージに合う描画材を選び、それぞれの特徴を生かしたり、組み合わせたりしながら工夫して表している。	○ 段ボールに写した色や形、立体にした段ボールの形から想像を広げたり、友達と交流したりしながら、楽しく発想や構想を繰り返して、どのように表すかについて考えている。	○ 想像した世界を表現したり、友達と思いを伝え合ったり、互いの作品を見合ったりなど楽しく活動しながら、意欲的につくったりつくりかえたりしている。
振 り 返 り	○ 色や形に着目して自分や友達の作品を鑑賞したり、自分の活動を振り返ってその意味や価値に気付いたりして、色や形と豊かにかかわりながら自分の世界を広げている。	○ 作品を様々な視点から鑑賞し、自分や友達の表現のよさや面白さを見付けたり認め合ったりして、自分の見方や感じ方を広げている。	○ 自分や友達の作品を鑑賞したり、自分の活動を振り返ったりしながら、身に付けた「そうぞうする力」を使って、新しいもの・ことを生み出そうとする気持ちを高めている。

(2) 子どもの自己評価と相互評価

ア 自己評価

振り返りカードの子どもの記述から、授業中の子どもを観察することだけでは、気付かなかった一人一人の活動への思いや態度を知ることができ、個に寄り添った評価をすることができる。また、記述だけでなく記号の4段階で振り返りもさせる。低学年の子どもは、自分の活動や考えを的確に記述することが難しい児童もいる。観点を設けて、振り返りをさせることで、子どもは自分の活動を客観的に見詰め、振り返ることができるであろう。また、振り返りカードには、子どもと完成した作品と一緒に映った写真を貼り、作品の中でよくできたポイントに赤丸を付けさせる。そうすることで、完成した作品の中で、子どもがこだわったところや満足している表現を知ることができるのではないだろうか。そして、子どもは、作品と一緒に写った自分の表情などから、この題材の自分の活動のよさを改めて実感することができると思う。

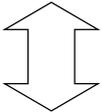
イ 相互評価

完成した自分や友達の作品を鑑賞し合い、作品のよさや面白さを互いに伝え合ったり鑑賞カードに書かせたりする。友達の作品のよさや面白さを意欲的に見付け、認め合い、伝え合うことができているのか見取る。互いの作品を鑑賞し合い、作品に対する思いや考えを友達に伝え合うことは、自他の作品や活動のよさに改めて気付き、自分では気付かなかったよさをも知ることによって、更に自分の作品への愛着を深め、本題材で身に付けた「そうぞうする力」を今後の活動にも生かそうとするのではないかと考える。

① 自分が考えたアイデアを表現し、友達に伝えられた。	◎+○+□+△
② 自分が考えたアイデアを表現し、友達に伝えられた。	◎+○+□+△
③ 自分が考えたアイデアを表現し、友達に伝えられた。	◎+○+□+△
④ 自分が考えたアイデアを表現し、友達に伝えられた。	◎+○+□+△
⑤ 自分が考えたアイデアを表現し、友達に伝えられた。	◎+○+□+△
⑥ 自分が考えたアイデアを表現し、友達に伝えられた。	◎+○+□+△

7 本時の授業（4／6）

- (1) 日時 令和2年2月1日(土)10:20～11:05
- (2) 場所 1年星組教室
- (3) ねらい 想像した世界を自分のイメージに合う描画材を選択するなど工夫して絵に表現する。
- (4) 準備物 白い段ボール、描画材（ペン、色鉛筆、クレヨンなど）、タブレットPC
- (5) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
<p>1 本時の活動を確 認する。</p> <p>2 想像した世界を 絵で表現する。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>友達と交流する。</p> <p>3 本時の活動を振 り返る。</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">どんな世界が広がりそうかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールを階段みたいな形にしたよ。この面は色が緑っぽいから、森で動物がたくさんいて遊んでいる絵を描きたいな。次の面はどうしようかな。 ・四角く折って立てたよ。内側はお城の中でパーティーをしているみたいに描いたよ。外側は遊園地みたいに遊べるところを描こうかな。 ・ローラーの線が電車の線路みたいだから、電車がいろんな場所に冒険に行くような絵を描くんだ。 ・友達が似ている世界を作っていたんだ。つなげたら面白そう。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">想像した世界を絵に表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この青いローラーの線が海の波みたいだから、いろいろな色の魚がいる世界を描いているよ。色は、色鉛筆で塗ろうかな。 ・四つの面があるから、春夏秋冬の世界を作ろうかな。明るい色のこの面を春にしようかな。 ・ローラーで描いた丸い形が地球なんだ。ここから、宇宙に遊びに行くような絵にしているよ。すごいでしょ。 ・〇〇さんが、屏風みたいに立てていたんだ。私とつないだら、楽しくなりそうだよ。つないでみようよ。 ・〇〇さんが、面白い絵を描いていたんだ。どんな世界か、話を聞いてみたいな。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">自分や友達のいいところを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の描いた世界は、上が森で裏側が地面の中の世界なんだよ。もっと、たくさんいろいろな生き物を描こうかな。 ・〇〇さんが段ボールの内側と外側で違う世界を描いていてすごかったよ。ぼくも次やってみりたいな。 ・〇〇さんと私は、想像した世界が似ていたんだ。次の時間は、並べて一緒に描きたいな。 ・今日の活動がとっても楽しかったよ。次の時間ももっとたくさん描きたいな。 	<p>○ 前時の活動を振り返り、自分の活動に見通しを持ったり、友達の表現のよさに気付いたりすることができるようにする。</p> <p>○ 子どもが友達と自由に交流できるような教室環境や雰囲気を作ることで、子どもの新たな発想や構想が生まれやすいようにする。</p> <p>○ 子どもの様々な表現を全体で紹介したり、子どもの気付かない視点や方法を提案したりすることで、新たな表現方法に気付いたり想像を更に広げたりすることができるようにする。</p> <p>○ 子どもの思いを聞き取り、共感したり賞揚したりする声掛けをすることで、更に表現活動に意欲的に粘り強く取り組むことができるようにする。</p> <p>● 想像した世界を自分のイメージに合う描画材を選択し工夫して絵に表現しているか。 [発言・様態・作品]</p> <p>○ 本時の活動を振り返り、自分の思いや考えを伝えることで、自分の本時の活動や表現のよさを実感することができるようにする。</p>